



令和8年度7月

明和営農センターだより



平素は、農協事業に格別なるご理解、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

令和8年産水稻については、現時点で大きな被害もなく順調に生育していると思受けられます。今後、カメムシ発生の時期となりますので、防除を宜しくお願い致します。

また、野菜関係につきましても、秋冬の定植圃場準備の段階となります。堆肥施用、害虫対策等、非常に暑い中の作業になりますが、熱中症対策を万全にさせていただき、体調管理には十分注意し作業いただくよう、宜しくお願い致します。

お知らせ



☆令和8年産用 米袋のとりまとめについて

取り纏め期日を過ぎましたが、お忘れの方は早めにご注文をお願い致します。

価 格 → 出荷用袋114円/1枚 保有米袋102円/1枚

※特に年産入の袋につきましては、数量に限りがございますのでお早めに(´▽｀)

※出荷用袋については、農協出荷以外には使用しないようお願い致します！

米袋の配達予定につきましては、7月下旬頃より実施させていただきます。(入荷次第)

○明和営農センターの営業時間について

・7月の営業について

平 日 → 午前8時45分～午後6時まで

土日祝日 → 休業

※青果物集荷につきましては、集荷カレンダーの通りとなっておりますので別途ご確認ください。

※お間違えのないようによくお願い致します。



営農指導員たより



7月

今月からは非常に気温が高くなり、台風の襲来も多くなる時期となってきます。作物の生育も旺盛な時期となりますが、病害虫の発生も多くなり注意が必要です。体調管理には十分気をつけて、作業に努めて下さい。

水稻



本年産の出穂期予想は、4月20日田植えで7月22日予想です。(平均値と比較して3日ほど早い) また、成熟期の予測は8月26日と予想されています。(三重県普及センターの松阪地域での予測情報システムから一部抜粋) 上記の出穂日予想を参考に、圃場を確認し、防除を行うことで、適期防除を行うことができます。さらに、斑点米の原因にもなるカメムシの発生量については、もっとも多い値を示す「多」の予想です！出穂前に畦畔の草刈りを行うなど、周辺の雑草管理を行いましょう。またカメムシやいもち・紋枯病などのおすすめ防除や今後の管理等については、下記を参考にお願いします。

生育後期の管理

☆幼穂形成期以降は間断灌水に努め登熟期まで根の活力を維持できるようにします。間断灌水ができない圃場では、常時湛水とせず足跡に水が残る程度とし、数日ごとに田面水を新鮮な水に入れ替えます。

☆出穂前後は十分に湛水することにより、登熟初期の登熟障害が軽減します

☆出穂期以降に高温が予想される場合には、耐暑肥として出穂10日後頃に窒素成分で、1kg/10a (ぎんひめ穂肥15kg袋の場合7kg・化成肥料17-0-17の場合6kg) を施用します。ぎんひめ元肥・ぎんひめ一発を使用されている方は、ぎんひめ穂肥を使用して下さい。

本田防除

いもち病菌の生育適温は、25～28度で稲の感染適温は25度となります。降雨が2日以上続き最低気温が17度以上となると、約1週間の潜伏期間後、発病します。また近年、カメムシの発生が多くなっています。状況に応じて追加防除を行うなど例年以上に丁寧な防除をお願いします。参考薬剤は下記の通りです。

ブラシンバリダフロアブル ⇒ 収穫14日前まで 使用回数2回以内



いもち病・紋枯病
1000倍希釈液を10aに100ℓを目標
に散布(主にカメムシをターゲット
とした殺虫剤も混用して散布を推奨)



ビームエイトエクシードゾル⇒ 収穫7日前まで 使用回数3回以内



いもち病・ウンカ類・カメムシ類
1000倍希釈液を10aに
100ℓを目標に散布



☆上記の剤を参考に、穂揃期を目安に散布してください。



肥料・農薬など栽培に関するお問い合わせは

明和営農センター52-3047 または各営農指導員携帯へご相談ください。

